

安全大会資料

ヒューマンエラーを 防ぐ現場づくり

場面行動本能・言語変換・関係づくり

挨拶 / 自己開示 / 積極的傾聴

主催：株式会社ショキタ

本日の目的：人は間違える前提で、事故につながらない仕組みをつくる



本日の課題：ヒューマンエラーを「責める」から「防ぐ」へ

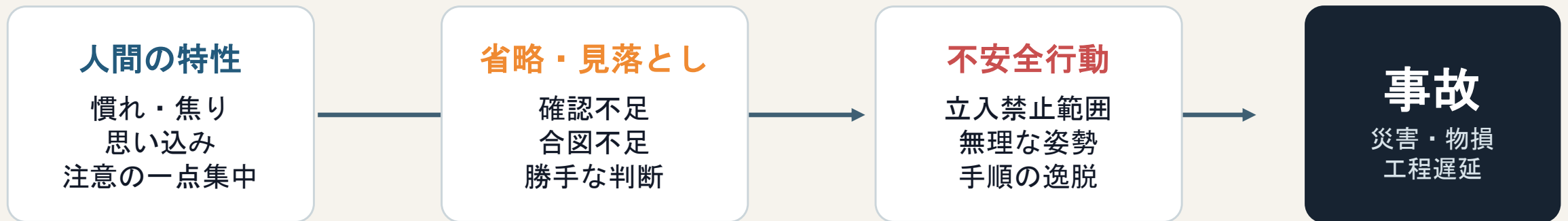
安全は「本人の注意力」だけに頼れない

現場では、悪気のない見落とし・聞き間違い・焦り・思い込みが、大きな災害につながります。だから、個人を責める前に、伝え方・確認方法・止める仕組みを整えることが必要です。



ヒューマンエラーは「人間の特性」から起きる

ヒューマンエラーとは、本来意図していない行動や判断により、望ましくない結果を生じることです。現場では、次の流れで事故に近づきます。



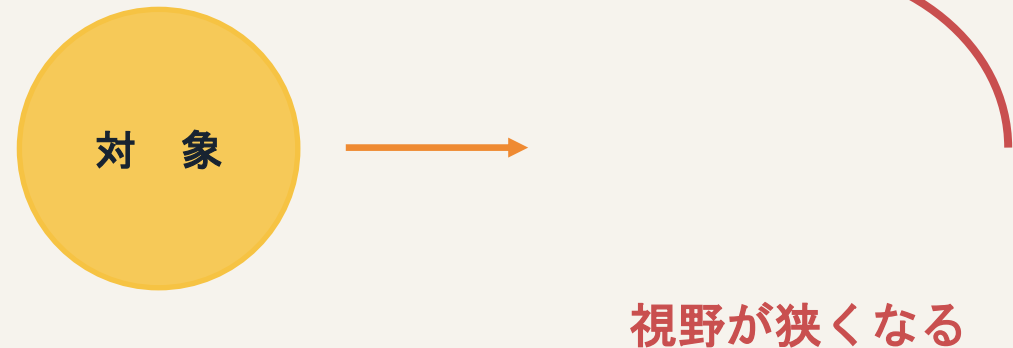
対策の考え方：エラーをゼロにするのではなく、エラーが事故へ進まないように止める。

場面行動本能：目の前の一点に引っ張られる



場面行動本能

一点に集中しすぎて周囲が見えなくなり、反射的に行動してしまう状態。



- ✓ 高所で物を落とし、反射的に手を伸ばす
- ✓ 重機の旋回範囲へ、道具を拾いに入る
- ✓ 吊り荷の揺れを手で押さえようとする

防止の鍵：言語変換で「伝わる指示」にする

「気をつけて」だけでは、何をどう避けるかが人によってズレます。危険を具体的な行動に置き換えて伝えることが重要です。

伝わりにくい指示

「気をつけて」
「ちゃんと見て」
「危ないから注意して」

言語変換

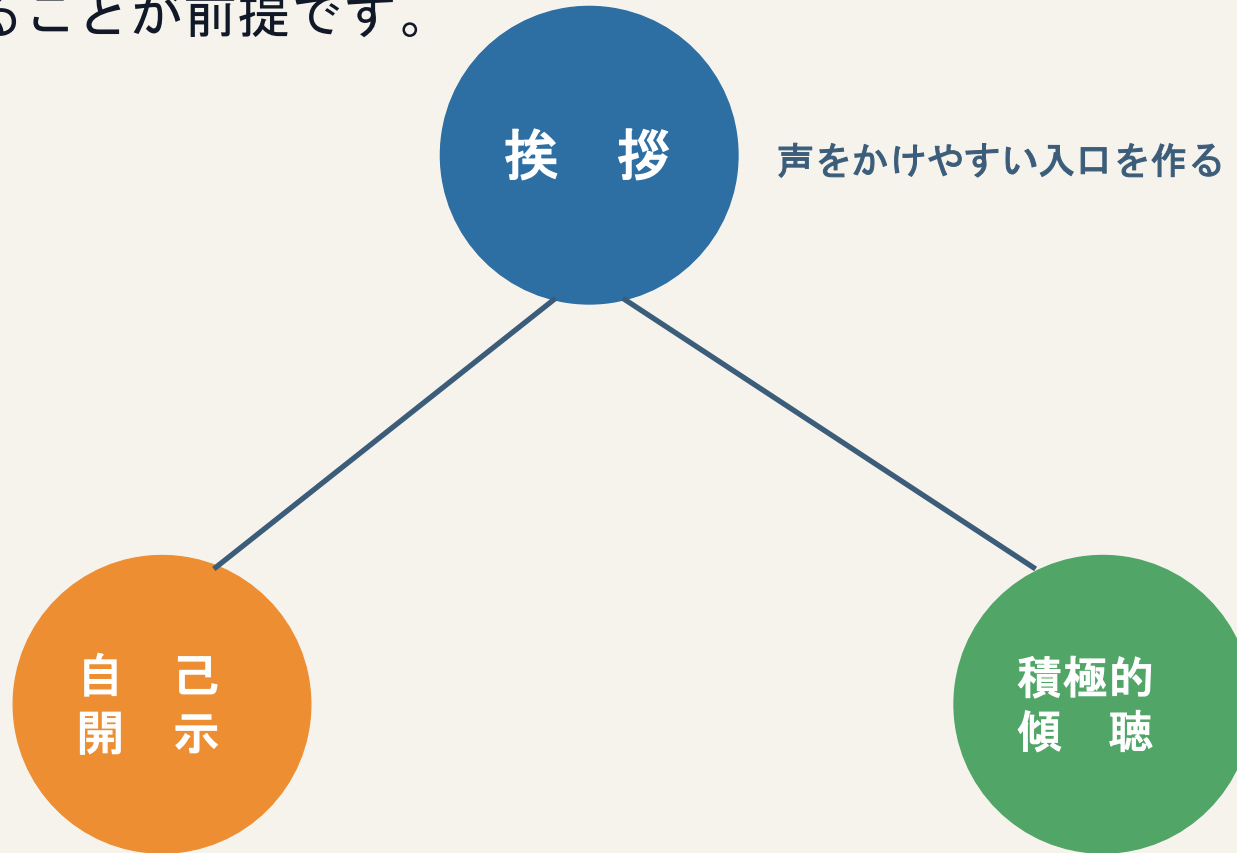
伝わる指示

「旋回範囲に入らない」
「届かない時は脚立を移動」
「吊り荷は手で押さえない」

ポイント：①対象 ②禁止行動 ③代替行動 ④確認方法 を入れる

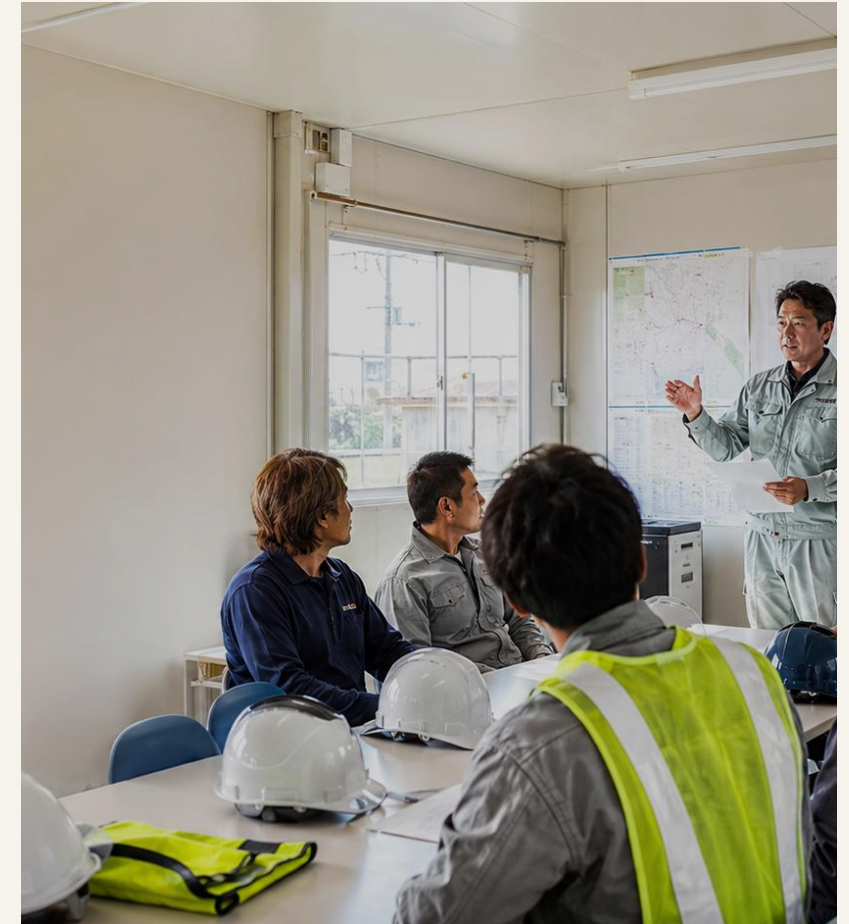
言語変換を支える関係づくり

危険を言葉にするには、日頃から「言しやすい現場」であることが前提です。



体調・不安・経験不足を隠さない

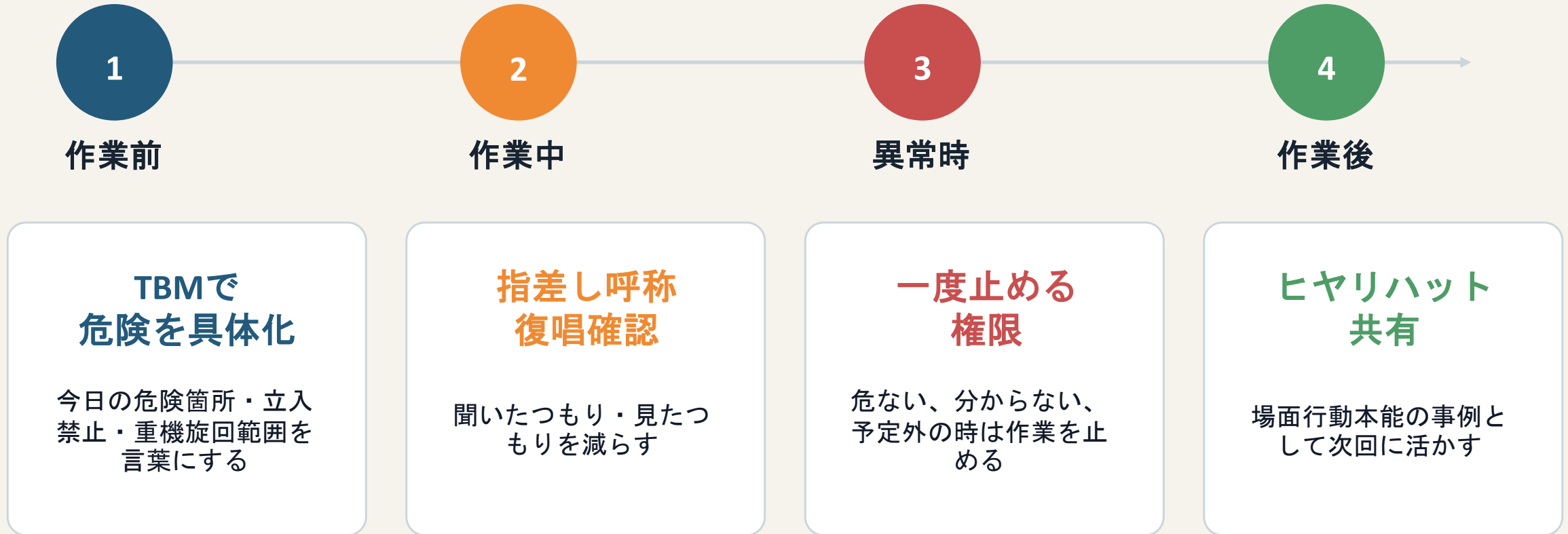
小さな違和感を拾い上げる



職長・責任者の一言

「気になることはある？」
「分からないところはある？」
「危ないと思ったら止めていい」

現場で実践する4つの確認



目的：現場の小さな違和感を、事故になる前に止める

まとめ：安全は「伝わって」初めて成立する



今日から徹底すること

- ✓ 「気をつけて」ではなく、具体的な行動で伝える
- ✓ 挨拶で声をかけやすい空気を作る
- ✓ 分からない・危ないと言える関係を作る
- ✓ 場面行動本能を前提に、一度止めて確認する

人は間違える。だから、現場全体で気づき、伝え、止める。